

数値目標の進捗状況と今後の方向性について

基本方針	指標(目標年度:長期:令和12年度/短期:令和6年度)	目標数値	5年度実績	6年度実績	目標数値の決め方 (長期:目標設定根拠/短期:長期目標との関連性)	目標数値の根拠となる調査	現状分析と今後の方向性
1 地域におけるスポーツ・レクリエーション活動の振興	長期目標 週1回以上運動・スポーツをする市民(18歳以上)の割合	75%以上	71.3%	69.3%	広島市スポーツ振興計画(以下「振興計画」という。)改定時の目標(70%以上)を平成31年度に達成したため、当時の目標から5ポイント上方修正した数値を、引き続き長期目標として設定した。 【実績:71.9%(平成31年度)】	広島市市民意識調査	<p>【現状分析】※調査データは別紙1表1-1~1-5のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和6年度市民意識調査(以下、「市民意識調査」という。)で、「週1回以上スポーツを行う」と回答した市民の割合は、別紙1表1-1のとおり69.3%(前年比2.0ポイント減少)であり、これは、別紙1表1-5のとおりスポーツ庁が毎年行っているスポーツの実施状況等に関する世論調査(以下「国調査」という。)における52.7%(前年比0.6ポイント増加)を上回っている。 ○ 市民意識調査では、全世代の中で最も「週1回以上スポーツを行う」市民の割合が高いのは50歳代の72.9%であり、最も割合が低いのは30歳代の57.3%である。週1回未満の方のスポーツの実施を妨げている要因については、別紙1表1-4のとおり70歳未満では「時間がとれない」が最も高く、70歳以上では「興味がない」が最も高くなっている。 ○ 市民意識調査で、「運動・スポーツをまったくしていない」と回答した市民の割合は、別紙1表1-3のとおり20.1%であり、昨年度の16.5%よりも3.6ポイント増えている。年代別に見ると18~29歳の14.0%が最も低く、30歳代の29.6%が最も高くなっている。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 普段あまり運動やスポーツをしない人や初心者に向けて、市ホームページや「ひろしま市民と市政」などの広報紙等を活用し、各スポーツ施設で実施する誰もが参加できるスポーツ教室等を幅広く周知することで、スポーツをするきっかけづくりに取り組む。 ○ 運動・スポーツの実施が週1回未満の方が、運動やスポーツを実施しない理由は、別紙1表1-4のとおり70歳未満の全ての世代で、「時間がとれない」ことが最も多かった。そのため、各区で実施している健康教室や健康相談等で、時間がない中でも生活の一部で実施できるような運動やストレッチなどを紹介するなど、関係部局と連携して啓発活動に取り組む。 ○ 70歳以上の世代では、スポーツの実施を妨げている要因として「興味がない」との回答が最も多かった。この対策として、地域との関わりを持ちながら、健康づくりや介護予防に主体的に取り組める「高齢者いきいき活動ポイント事業」を活用するなど、外出をして運動やスポーツを行う機会の充実を図る。
	短期目標 1年間に一度も運動・スポーツをしない市民(18歳以上)の割合	15%以下	16.5%	20.1%	運動・スポーツをしない市民を減らし、運動スポーツ実施率の向上に繋げる。 【実績:20.0%(平成30、31年度平均)】 <令和9年度目標> 令和6年度までは、過去の実績から毎年1.2~1.3ポイント減らすことを目標としたが、新型コロナウイルス感染症の影響等もあり、目標値に達していないことから、令和9年度目標についても引き続き15%以下を目標とした。	広島市市民意識調査	
	長期目標 1年間で運動・スポーツをささえる活動を行ったことがある市民(18歳以上)の割合	21%以上	—	16.5%	振興計画の数値目標にはスポーツを「ささえる」関係の項目がなかったため、新たに設定した。 平成21年度から平成31年度の約3ポイント増と同じ上げ幅を目標とした。 【平成31年度実績9.1%(広島市スポーツに関する意識調査)】 令和4年度実績が目標値に達成したことから、同様に実績値の約3ポイント増を新たな目標とした。 【令和4年度実績17.8%】	広島市市民意識調査 (この指標の調査は、偶数年度の実施のため、令和5年度調査なし。)	<p>【現状分析】※調査データは別紙1表2-1~2-2、3-1~3-2のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 市民意識調査で「1年間で運動・スポーツをささえる活動を行ったことがある」と回答した結果を年代別に分析すると、別紙1表2-1のとおり、全世代の中で最も高いのは40歳代の19.7%であり、最も低いのは30歳代の13.5%である。 ○ 新型コロナウイルスの影響により減少していたスポーツイベントボランティアの派遣人数及び派遣回数は、別紙1表2-1のとおり、令和6年は派遣人数3,222人、派遣回数104回であり、令和5年の派遣人数3,075人、派遣回数98回をいずれも上回っており、概ねコロナ前の水準(平成31年実績:派遣人数3,488人、派遣回数113回)に戻りつつある。 ○ サンフレッチェ広島の本拠地が旧スタジアムから入退場ゲートが少ない新スタジアムとなったことにより、充足率は高いものの、派遣人数が減少している。 ○ 本市のスポーツイベントボランティアの登録者数は、別紙1表2-2のとおり、令和6年は294人であり、令和5年より59人(令和5年実績353人)減少している。

基本方針	指標(目標年度:長期:令和12年度／短期:令和6年度)	目標数値	5年度実績	6年度実績	目標数値の決め方 (長期:目標設定根拠／短期:長期目標との関連性)	目標数値の根拠となる調査	現状分析と今後の方向性
	短期目標 広島市スポーツイベントボランティアの1年間の派遣人数	延べ3,700人以上	3,075人	3,222人	スポーツイベントボランティアの派遣人数が増えることで、市民の運動・スポーツをささえる活動のボランティアへの関心を高めることに繋がる。 <令和9年度目標> 令和6年度目標までは、過去の実績から毎年100人増やすことを目標としたが、新型コロナウイルス感染症の影響等もあり、目標値に達していないことから、令和9年度目標も引き続き、延べ3,700人以上を目標とした。 【実績:3,376人(平成29～31年度平均)】	スポーツ・サポート・センター資料 ((公財)広島市スポーツ協会事業)	【今後の方向性】 ○ 広島東洋カープやサンフレッチェ広島のスポーツイベントボランティアの希望者は多いが、他のスポーツについては、希望者が多くないことから、幅広い分野のスポーツに関心を持つてもらえるよう、当該スポーツ関係団体と連携した取組を実施する。また、近年、スポーツイベントボランティア登録者数が減少傾向となっており、登録ボランティアの活動回数が負担となりつつあるため、新規登録者数の獲得に向けた取組に努める。
2	学校における体育・スポーツの充実 長期目標 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果において体力合計点の全国の平均値を100とした際の広島市の割合	103以上	98.6 小学生 98.2 中学生 99.0	98.6 小学生 98.4 中学生 98.7	振興計画の数値目標である種目数から各種目の成績の合計点に変更した。都道府県の10位以内相当となることを目標とした。 【実績:小学生101.0、中学生101.9(平成29～31年度平均)】	全国体力・運動能力、運動習慣等調査(スポーツ庁)	【現状分析】 ○ 広島市の体力合計点は、小・中学校男女ともに全国を下回っている。また、令和5年度と令和6年度の広島市の平均値を比較すると、小学校では男女ともに下回っており、中学校では男子が上回っており、女子が横ばいとなっている。 【今後の方向性】 ○ 年度当初に各学校が作成する「体力向上推進計画書」について、教育委員会が各校の取組の進捗状況をアンケートにより把握し、指導助言を行う。 ○ 小学校の体力つくり推進リーダーや中学校の保健体育科教員を対象に実技研修会を行う。また、広島市小学校教育研究会や広島市中学校教育研究会と連携し、効果的な準備運動の在り方について検討する。さらに、Googleクラスマームの内容を充実させ、各校の好事例について動画や資料を閲覧できるようにするとともに、研修会等で積極的な活用を促す。 ○ 令和7年度は体力向上重点指定校を小中学校で1校ずつ増やし各2校とする。また、指定校において研究推進リーダーを中心とした効果的な取組を公開研究会等で全校に普及することにより、継続的に児童生徒の体力向上に向けた取組を推進する。 ○ 指定校において体力テストのオンラインシステムを利用し、年間で複数回体力テストを実施するとともに、科学的な分析や取組の効果検証を行う。 ○ 指定校において、課題である体力テスト項目について目標値を設定し、課題改善のための取組を推進する。

基本方針	指標(目標年度:長期:令和12年度／短期:令和6年度)		目標数値	5年度実績	6年度実績	目標数値の決め方 (長期:目標設定根拠／短期:長期目標との関連性)	目標数値の根拠となる調査	現状分析と今後の方向性
3 競技力の向上	短期目標 運動やスポーツが好きだと思う児童生徒の割合	小学生	92%以上	89.5%	89.2%	<p>運動やスポーツを好きだと思う児童生徒が増えることにより、運動・スポーツに取り組む児童生徒が増え、全国体力・運動能力テストの結果に繋がる。</p> <p>小学生は国のスポーツ基本計画の目標の92%を、中学生は小学生と同等の上げ幅の目標とした。</p> <p>【実績:小学生90.8%、中学生85.4%(平成29～31年度平均)】</p> <p>＜令和9年度目標＞</p> <p>令和9年度目標は、「1週間の総運動時間(体育の授業を除く)が60分未満の割合」に変更した。</p> <p>この目標は、実運動時間を増加するものであり、より長期目標である全国体力・運動能力テストの結果の向上に繋がると考えることから、国の目標と同様に過去の実績から半減することを目標とした。</p> <p>【実績:小学生11.1%、中学生15.4%(令和4～5年度平均)】</p>	全国体力・運動能力、運動習慣等調査(スポーツ庁)	<p>【現状分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「運動やスポーツをすることが好き・やや好き」と回答した児童生徒は、小学校男子が92.6%(93.2%)、小学校女子が85.8%(86.2%)、中学校男子が90.3%(90.6%)、中学校女子78.3%(76.9%)となり、全国平均値と比較すると、小学校男女と中学校男子は下回っており、中学校女子は上回っている。 <p>※()内は全国平均値</p> <p>また、「1週間の総運動時間60分未満」の児童生徒については、小学校男子が8.6%(9.2%)、小学校女子が14.2%(16.0%)、中学校男子が10.8%(9.2%)、中学校女子が23.2%(21.4%)となり、全国平均値と比較すると、小学校男女とも割合が低く、中学校では男女とも割合が高かった。</p> <p>※()は全国平均値。</p> <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業改善や運動習慣の定着に係る取組を実施し、運動やスポーツが好きだと思う児童生徒の割合の増加に努める。 <ol style="list-style-type: none"> 授業改善について <ul style="list-style-type: none"> 指定校において成果のあった授業改善の取組を全校に普及する。 運動習慣の定着について <ul style="list-style-type: none"> 指定校において成果のあった運動習慣の定着に係る取組を全校に普及する。 また、トップス広島に所属する各スポーツチームが作成した「一人でもできる運動」動画を、学校のタブレットでいつでも活用できるようにする。
		中学生	87%以上	83.7%	84.3%	振興計画の数値目標が未達成だったため、引き続き長期目標として設定した。	(公財)広島県スポーツ協会資料	<p>【現状分析】※調査データは別紙1表4のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年度の広島市選手の割合は56.7%で、前年度比で3.4ポイント減少している。内訳は、成年が67.4%、少年が43.4%で、前年度比で、成人が6.1ポイント減少し、少年が1.7ポイント減少している。減少幅が大きかった成人男子については、令和5年度出場していた市内在住者割合が100%であったバレー・ボールが、令和6年度は出場がなかったことなどが要因であり、その年の出場競技種目により、変動しているものと思われる。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 広島市スポーツ協会では、将来、国スポーツへ出場するジュニア選手(小中学生)を育成することを目的に、競技団体と連携した「強化指定選手発掘・育成事業」「国民スポーツ大会等を目指すジュニア選手育成事業」等を実施しており、令和6年度においては、「強化指定選手発掘・育成事業」に1,259人、「国民スポーツ大会等を目指すジュニア選手育成事業」に335人が参加している。令和6年度は、過去に当事業に参加した者から171人が全国規模の大会に出場しており、一定の成果が表れているため、広島市スポーツ協会加盟競技団体と連携し、引き続き事業を実施する。

基本方針	指標(目標年度:長期:令和12年度／短期:令和6年度)		目標数値	5年度実績	6年度実績	目標数値の決め方 (長期:目標設定根拠／短期:長期目標との関連性)	目標数値の根拠となる調査	現状分析と今後の方向性
	運動部やスポーツクラブに入っている児童生徒の割合	小学生	58%以上	54.7%	55.4%	<p>運動部やスポーツクラブに入っている児童生徒が増え、活動が活発になることにより、競技力の向上が図られ、将来国体に出場できるような選手の育成に繋がる。</p> <p>過去の実績から毎年1ポイントずつ増やすことを目標とした。</p> <p>＜令和9年度目標＞</p> <p>令和6年度目標までは、過去の実績から毎年1ポイントずつ増やすことを目標としたが、新型コロナウイルス感染症の影響等もあり、目標値に達していないことから、令和9年度目標も、引き続き、小学生58%以上、中学生77%以上を目標とした。</p> <p>【実績(平成29～平成31平均)：小学生54.9%、中学生73.9%】</p>	全国体力・運動能力、運動習慣等調査(スポーツ庁)・	<p>【現状分析】※調査データは別紙1表5-1、5-2のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ スポーツ庁が毎年行っている全国体力・運動能力、運動習慣等調査(以下、「全国体力等調査」という。)から算出したデータによると、本市においては、運動部やスポーツクラブに入っている割合は、小学生は55.4%(58.9%)、中学生は68.4%(68.2%)であり、全国平均値と比較すると、小学生は平均以下であり、中学生は平均以上であった。 <p>※()内は全国平均値</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「運動やスポーツをすることが好き・やや好き」と回答した児童生徒は、小学校男子が92.6%(93.2%)、小学校女子が85.8%(86.2%)、中学校男子が90.3%(90.6%)、中学校女子78.3%(76.9%)となり、全国平均値と比較すると、中学生女子を除き、平均以下であった。 <p>※()内は全国平均値</p> <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 指定管理者や競技団体等と連携して、初心者向けスポーツ体験教室を開催するなど、より多くのスポーツに触れる機会づくりに努める。
		中学生	77%以上	70.6%	68.4%			
4 まちの活力創出に向けたスポーツの振興	1年間にスポーツの試合・大会等(※)を直接観戦した市民(18歳以上)の割合 ※ 全国規模のスポーツリーグの試合又は国際的・全国規模のスポーツ大会とする。	長期目標	50%以上	46.1%	45.1%	振興計画の数値目標が未達成のため、引き続き長期目標として設定したが、トップスに限らず、スポーツ大会等の観戦者も増やす必要があることから、一部修正した。	広島市市民意識調査	<p>【現状分析】※詳細は別紙1表6-1、6-2のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 市民意識調査によると観戦率は45.1%となっており、年代別に分析すると40歳代が全世代の中で最も高く、53.9%であり、70歳代が全世代の中で最も低く、35.0%である。 ○ チーム別では広島東洋カープの観戦が38.3%で最も高く、次にサンフレッチェ広島の観戦が12.2%、市内で開催される国際的・全国的なスポーツ大会が5.8%と続いている。サンフレッチェ広島については、令和6年度は新スタジアムであるエディオンピースウイング広島が初年度ということもあり、昨年度の8.1%から4.1ポイント上昇し、12.2%となっている。 ○ 令和5年度のサンフレッチェ広島の観戦割合については、40歳代までは15.5%、50歳代以降ではその半分以下の5.9%となっていたが、令和6年度は、50歳代以降が4.4ポイント上昇し、10.3%となっており、新スタジアムの効果もあり年齢の高い世代でも観戦割合が上昇したものと考えられる。 ○ 令和6年度の広島ドラゴンフライズの観戦割合については、令和5年度の3.9%から1.2ポイント上昇し5.1%となっており、LEAGUE 2023-24シーズンにおける年間チャンピオンになったこと等により上昇したものと考えられる。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本格的なスポーツを観戦する機会を創出するため、国際大会・全国大会等の開催・誘致などに引き続き取り組む。 ○ 中区役所ではサンフレッチェ広島、東区役所ではイズミメイブルレッズ、南区役所では広島サンダーズ、西区役所では広島ドラゴンフライズ、ヴィクトワール広島等、地域に密着したチームを支援しており、引き続き、各区役所と連携したトップス広島加入団体の活動の支援や広報等に努める。 ○ 幅広い世代が様々なスポーツに親しむことができるよう、「トップスポーツ観戦ラリー」の実施や、トップス広島と連携して地域でスポーツ教室を開催し、選手と触れ合う機会を創り応援気運の醸成を図るなど、スポーツを観戦する動機付けにつながるイベントの創出に努める。
		短期目標	48%以上	46.1%	45.1%	令和12年度に50%以上を達成するためには、平成31年度を基準とすると毎年0.6ポイント増やす必要があることから、令和6年度の目標を46%以上としていたが、令和5年度実績が46.1%となり目標を達成した。そのため、令和9年度目標にあわせて、目標を48%以上とした。	広島市市民意識調査	